



聖路加

チャペル ニュース

2021年11月28日 No. 264

〒104-0044
東京都中央区明石町10-1
聖路加国際大学礼拝堂
TEL 5550-2416
TEL 5550-7043
FAX 5550-7070
E-mail: chapel@luke.ac.jp
URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>



執事接手式 10月2日 聖アンデレ主教座聖堂

聖書に学ぶ会

リモート (Zoom) で行っています。

第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書 (上田司祭)

第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書 (関司祭)

ご関心のある方は、チャペルにお問い合わせください。

巻頭メッセージ

「待ちきる」情熱と信仰を

礼拝案内

月・火・木・金曜日

■午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜、第3火曜、第3水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

■午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■午前10時30分 聖餐式・説教 臨時チャペル
感染予防対策のため予約制で行います

■午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

巻頭メッセージ

「待ちきる」情熱と信仰を

司祭 バルナバ 関 正勝

この一年半新型コロナウイルス感染症の蔓延によって私たちの教会生活も社会生活も巣籠状態を強いられて来ました。特に教会生活においては、ご復活日、クリスマス、聖霊降臨日などの信仰的な養いにとつて大切な祝日を、そして主日毎の聖餐式も共に集い、共に祈り、共に交わる感謝賛美の時も公には持つことのできない日々が続いて来ました。私たちにとつて、このように当たり前の日常が非日常の世界となることで、所謂AI時代の流れに乗って創意工夫が試みられヴァーチャルな交流・コミュニケーションが展開されてきているように思います。しかし、私たちの存在は単に精神的であるだけでなく、肉体を持つた身体的な存在であることを強く自覚させられています。肉体は精神のように肉体の重荷から無限飛翔してしまうことを許しません。情報はドライな事実だけが伝えられるだけで真実は聞こえては来ません。従つて、このような閉塞状況から解放される日を私たちは待ち望んでいます。

コロナ禍の日々は私たちに改めて

日常生活の中で待つ忍耐とその日が現実となる喜びのときとの間の一種の緊張感をもたらしています。その緊張感はいま私たちの降臨節から降誕日へと続く日々と重なります。降臨節第一主日の福音はイエスの言葉を記します。「いちじくの木や、ほかのすべての木を見なさい。葉が出始めると、それを見て、既に夏の近いことが分かる。それと同じように、これらのことが起こるのを見たら、神の国は近いと悟りなさい。」(ルカ21章29節)聖書協会共同訳)日々の生活の中で起こるあれやこれやの出来事や小さな事柄に神の働きが込められていることを悟り得ているでしょうか? 癒しと救いの徴候を感じているでしょうか?

「折々のことば」を連載(「朝日新聞」)中の鷺田清一さんがフランスの哲学者アランの言葉を引用しながら、「礼拝は、待つほかないものを待ちきる知恵なのか。」と書いておられました。(10月24日)「待ちきる知恵」こそ私たちの信仰でありましょう。